電波新聞

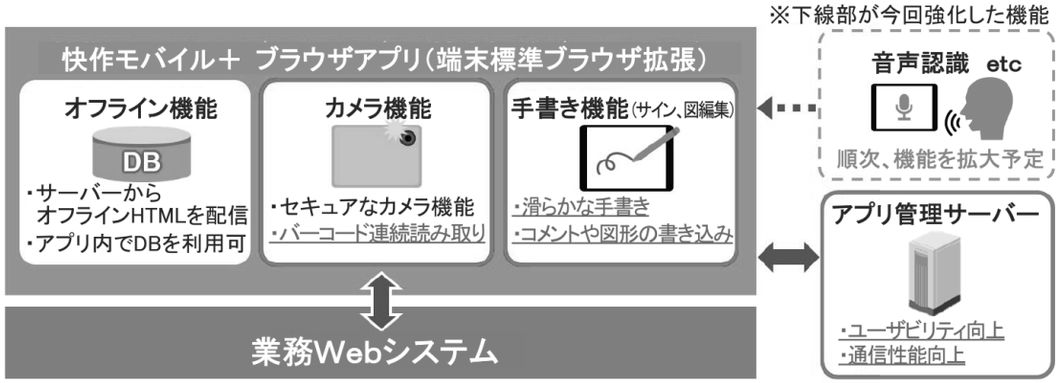
日立ソリューションズ・クリエイト

主力のモバイル事業強化

ニューノーマルのDX実現

日立ソリューションズ・クリエイト(東京都品川区、竹田広光社長)は、新型コロナウイルス感染拡大により変わってしまった企業の業務環境の支援を目指し、主力のモバイル事業を強化する。約300社7万5千ユーザーの導入実績を持つモバイル技術を生かし、ニューノーマル(新しい日常)下でのデジタルトランスフォーメーション(DX、デジタル変革)を図る。29日から第1弾として現場でのデジタル化を支援する製品を発売。今後順次製品や機能を拡充していく。

快作モバイル＋ Ver.3の概念図



・モバイル端末ならではの多種多様なインプット方法をフル活用し、様々なデータのデジタル化を支援
・セキュリティも管理者がコントロール可能

現場デジタル化を支援

第1弾 製品発売

事業強化に当たり、業務システムのモバイル化を効果的に実現できる主力の「快作モバイル＋」を中核にしたモバイル製品群「モバイルスクエア・プラス」に注力。快作モバイル＋は、携帯電話やスマートフォンといったモバイル端末を安全に業務に生かすための機能を装備。銀行や保険、官公庁、製造業、インフラ関連業など幅広い業界での導入実績があり、中小規模から大規模まで幅広く対応できる特徴がある。

今回、コロナによりテレワークや業務のDX化への取り組みが進む背景から、快作モバイル＋の機能を強化しリモートワークなどを効果的に行える「Ver.3」を開発し発売。新製品はWebシステムでありながらも、カメラや手書きなどモバイル端末が持つ機能を安全に使えるデバイス連携機能を搭載した。現場での作業報告等を写真などを活用しながら効率良くできる。

カメラは端末内にデータを残さないセキュアカメラとして利用できるほか、入力機能が大きく強化されている。端末のキーボードだけでなく、数字キーボードやスライドバーといったカスタム入力も可能。バーコードやQRコードの連続読み取りも実現し、手書き入力やスタンプなどの描画ができるため、図の編集も可能だ。

端末も管理しやすくなった。管理サーバーソフトのインターフェイスを刷新して使い勝手を高めて、社外からの接続性を改善するなど、通信性能も高めている。

「今後は音声認識などの機能も順次拡充するほか、日立製作所グループの製品連携なども進めていく」(同社)としている。

価格は100ユーザーの場合で266万円(税別、モバイルアプリケーションとサーバーライセンス、別途構築費用)となる。11月2日から出荷する。

快作モバイル＋を軸にしたモバイルスクエア・プラスには、タブレットによる業務報告ができる「快作レポート＋」やリモートアクセスができる「ドゥモバイル」、貨物のダメージ情報を管理できる「ダメージ・トレーサー」などを用意。19年度のモバイル関連事業は約5億円だが、新製品の導入により初年度の事業規模を約7億円まで拡大する計画。今後3年で累計30億円を目指す。

モバイル端末の画面

※本記事は、発行元の許可を得て掲載しております。